

ディプロマポリシー 科目名		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持つて医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。
教養科目群						人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「ものの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	歴史と文化	◎	○			・人文科学分野(歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など)を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。
	人間と生命	◎	○			・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。
	生活と社会	◎	○			・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。
	自然と技術	◎	○			・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
	ウェルネス総合演習	◎	○			・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにした講義と演習、実習により総合的に学び、考える。
創成科学科目群						現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。
	グローバル科目		○	○		・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要であることを学ぶ。
	イノベーション科目				○	・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
	地域科学科目	○	◎	○	○	・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
	医療基盤科目	○	◎	○	○	・横断的な医療分野の基盤教育と汎用的技能を学ぶ。 ・専門領域における社会的意義を理解し、チーム医療、健康社会づくり等のスキルの獲得を目指す。
基礎科目群						大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。
	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～			○		・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	基礎化学	○	○			・専門分野での学びに不可欠な基礎学力を身につける。 ・基礎知識の習得を目指した講義と、知識と実技の連携を目指す実験・実習を通して学ぶ。
	基礎生物学	○	○			
	情報科学	◎	○			・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。
外国語科目群						英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。
	英語	○	◎			・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基盤英語は、高校までに身につけた英語力の充実に回り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基礎英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。
	初修外国語	○	◎			・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。
	人間関係論	○	◎	○		医療福祉施設における職員の活動状況を見学することや、対象者に接することによって、医療福祉施設の役割を学び、対象者の生活の様子を知る。 少人数のグループにわかれて、医療または福祉施設において、介護を必要とする人と直接かかわる実習を行う。実習は夏期集中であるが、前期に事前オリエンテーションを実施するので、それに出席することが必要である。

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標	
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持つて医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。		基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。
科目名							
学科共通科目	人間	生化学Ⅰ（生体分子の構造と機能）	○				生体分子の構造と機能を理解するため、その根底となる生命現象、特に核酸およびタンパク質の構造と機能、遺伝情報の伝達（複製、転写、翻訳）について解説する。次に、基本的な生体高分子であるタンパク質および酵素について、その構成要素であるアミノ酸の構造・性質も含め解説する。また、同じく主要な生体高分子である糖質・脂質の基本的な構造と生体内での機能、それらの構成要素である単糖や脂肪酸の特性について述べる。さらに、生化学・分子生物学的手法による遺伝子解析、タンパク質解析、遺伝子組換えに関する基本的手法について概説する。
		解剖生理学Ⅰ（基礎知識・消化器・呼吸器）	○	◎			細胞の基本的な構造とその機能を教授する。さらに消化器、呼吸器の形態と機能について教授する。
		解剖生理学Ⅱ（循環器・血液・腎臓）	○	◎			循環器、腎臓の構造とその機能について教授する。血液を構成する各種細胞の形態と機能、体液の構成成分とその恒常性の維持について教授する。
		解剖生理学Ⅲ（脳神経・感覚器・自律神経・内分泌）	○	◎			脳・神経系ならびに自律神経・内分泌器官の構造と機能を教授する。
		解剖生理学Ⅳ（骨・筋肉・免疫・生殖・老化）	○	◎			筋肉・骨、生体の防御機構、生殖器官の機能、卵子、精子の形成、受精ならびにヒトの初期発生を教授する。
	環境	衛生学	◎				人の健康と環境の関わりを学び、環境保健学の理解を深める。また、衛生学・公衆衛生学の基礎を広くを教授する。
		保健学概論	○	○			医学が主に「病気」を扱うのに対し、保健学では「病気」の治療も含めて健康の維持・増進に取り組む。オムニバス講義における幅広い話題を通して、ヒトの健康や病気を医学生物学的な、あるいは社会医学的な面から考える。
		医療経済論	○		○	○	医療の特異性を理解した上で、病院組織ならびに地域医療システムについての理解を深める。これまで学んできた他の授業を統合し、実際の医療現場のイメージを持ち、医療経営や医療経済の理論との結びつきを理解する。
		社会福祉概論	○	○	○		社会福祉の基本理念や歴史、現状を通し、社会福祉を理解する。大変幅の広い領域であるが、社会福祉全般を理解できるよう、教科書の使用により解説する。
		放射線衛生学	○	○			放射線の生物学的影響、国際放射線防護委員会勧告及び我が国の防護関係法令、自然放射線被曝、医療被曝、職業被曝さらに公衆・職業人に対する放射線影響について考え、不必要な放射線被曝を避ける方策について学ぶ。
		医療安全管理学	○	○			医療における救急時の諸問題、感染管理および安全管理に関する基本的知識を教授する。心肺蘇生法（一次救命処置、二次救命処置）、救急救命処置の基本手技、救急器具・薬品の使い方について演習を含め講義する。
		介護実習			○	○	少人数のグループにわかれて、医療または福祉施設において、介護を必要とする人と直接かかわる実習を行う。実習は夏期集中であるが、前期に事前オリエンテーションを実施するので、それに出席することが必要である。
		チーム医療論			○	○	保健、医療、福祉を含めた統合的ケアサービスを提供するために、患者や障害を抱える人の問題に対してどのようにチームアプローチする必要があるかを検討するための基礎的知識を教授する。
		教育指導論	○			○	教育指導を実施するにあたり必要な基本的知識を学習し、それをふまえて、医療従事者が患者さんやその家族に対して行う教育指導場面について、具体的な適用方法を学習する。
	健康	薬理学	○	○			医療従事者として医薬品の適正使用に必要な、1) 医薬品使用における基本的知識、2) 医療現場で使用される主な薬物の作用と副作用、3) 医療従事者として必要な医薬品の安全対策、について学ぶ。
		栄養学	○	○			食物摂取の調節機構、消化と吸収、各栄養素の代謝とその生理的意義等について学習し、人体と食物の相互作用について理解する。また医療職として必要な栄養ケア・マネジメントについても概説する。
		精神保健	○			○	現代社会における生活場面との関わりの中での精神保健について、講義とグループワーク、発表を活用し検討する。
		免疫学Ⅰ（臨床免疫学）	○				免疫とは、疫（病気）を免れる（排除する）という意味である。生体の病原菌や非自己のものを認識し、排除する巧妙な仕組みについて学ぶ。しかし、免疫反応がときに生体にとって有害な反応（アレルギー、自己免疫疾患）を引き起こすことがあり、それらの機序についても学ぶ。
		病理学Ⅰ（基礎）	○	○			病気の原因とその本態を知る。病的状態における人体の形態的変化を理解する。
		医学統計学	◎	○			データ分析に必要な基本統計量と医学分野で良く使われている統計解析法を学ぶ。統計学における数理的思考を学ぶとともに、統計学が医学においてどのような形で使われているかを理解し、最新統計学を学ぶための基礎を身に付ける。

科目名	ディプロマポリシー			【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
				①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持つて医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様なニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。
		医学統計学演習		○	○		○	本演習では、情報モラル・リテラシーを学ぶとともに、具体的なデータを用いてコンピュータを使った具体的なデータ処理の方法と統計解析の方法を演習形式で学ぶ。
機能系検査学		生化学Ⅱ(疾病と生化学的変化)		◎	○			生体は化学物質で構成されており、生命現象はその化学反応との相互作用によって発現されている。この生命現象の化学を、物質代謝の面から理解する。
		生化学実習		◎	○		◎	生化学領域で使用される基本的な方法を、実習で体験し原理や操作を習得する。蛋白質の電気泳動や酵素活性の測定などを通し、生体試料の取り扱い方を習得する。
		保健学		○	◎	○		健康問題の変遷や健康課題を概観し、健康管理を支援するための地域保健活動を理解する。
		環境衛生学		◎	○	○	○	人の健康に及ぼすさまざまな環境要因をとりあげ、健康影響とその対策をはじめ、環境問題の今日の課題について教授する。
		保健環境学実習		◎	○		◎	健康に及ぼす生活上の因子について、身近な環境測定を通して理解を深めることを目的とする。
		生化学的検査Ⅰ(測定基礎原理・各論)		◎	○	○	○	疾病の診断や治療などに、血液や尿中の各種成分濃度の測定が重要である。臨床化学は、主に血清中の各種成分濃度と疾病とを関連させながら、測定原理、測定方法、およびその意義などに関する知識を習得する。
		生化学的検査Ⅱ(各論・機能検査)		◎	○	○	○	疾病の診断や治療などに、血液や尿中の各種成分濃度の測定が重要である。臨床化学は、主に血清中の各種成分濃度と疾病とを関連させながら、測定原理、測定方法、およびその意義などに関する知識を習得する。
		生化学検査学実習		◎	○	◎	◎	臨床化学で学習した知識を基にし、生体試料(血清)に含まれる特定成分量の測定原理、測定方法および実際の手法を習得する。また、測定値の管理法および大量の検査データから必要な情報の選択、収集法を習得する。
		放射性同位元素検査技術学		◎	○	○	○	化学的な視点から原子の構造や放射線との関係、さらに同位体と核種との関連性などについて理解する。放射化学の基礎知識や基礎概念から元素化学に関連した化学分離及び純度検定を知り、放射性核種の応用面(物質と放射線の相互作用や、エネルギー収支に伴う化学的変化の過程の応用)や、その利用(放射化学の核医学への利用など)を理解する。
		生理学実習		◎	○		◎	人体が示す生命現象や生理現象と種々の疾病における人体の構造と機能を理解するために、生体構成成分の構造と機能を調べる方法、人体の生理機能の測定原理とその方法、および病態における生体の変化を観察する方法などを実習を通して学習する。
		生理検査学Ⅰ(循環器系・呼吸器系・感覚系検査)		◎	○	○	○	心電図、心エコー図、心音図、心機能等の心血管系の生理検査について、基本的知識の講義と共に視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行う。
		生理検査学Ⅱ(神経・筋系検査)		◎	○	○	○	脳波検査、筋電図、神経伝導速度等の神経系の生理検査について、基本的知識の講義と共に視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行う。
		画像検査学		◎	○	○	○	本教科では、呼吸機能検査、超音波を利用した画像検査等について、教科書やアトラスを用いて講義し、ビデオ等の視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行う。
		生理検査学実習		◎	○	○	◎	生理検査に必要な技術の習得、とくに医療過誤を防止し、正確な検査データを迅速に作成することを目標とする。
		画像検査学実習		◎	○	○	◎	画像検査の測定原理、結果の解釈、臨床的意義を認識させ、正確な検査技術の習得をめざす。
		臨床画像検査学		◎	○	○		前半では、超音波診断装置および磁気共鳴画像診断装置の構成、動作原理、基本性能などを理解する。後半では、磁気共鳴断層撮影の原理と撮影方法の基礎から実際のパラメーター設定を含めて実用的な知識を習得する。さらに疾患や部位ごとの撮影方法や得られる所見及び情報についても理解することも目的である。
		分析化学		◎	○			化学反応を利用して医薬品や環境試料などを分析するための基礎的知識を習得することを目的とする。
		解剖組織学実習		◎	○		◎	解剖学の基礎知識と病理検査学や臨床血液学等の専門的知識の橋渡しとして、人体の諸形態や臓器と正常組織との関連を重視して、組織細胞の形態的意義は生理的機能に及ぶ広い範囲の知識と概念を修得することを目的とする。
		病理学Ⅱ(応用)		◎	○	○	○	病的状態、とくに腫瘍における組織学的所見を理解する。
		細胞診断学実習		◎	○	◎	◎	病理診断は最終診断であり、他の種々の検査にもまして重要である。病理診断の際に必要な顕微鏡標本の作製技術の習得を目的とする。
		病理検査学		◎	○	○	○	細胞診断学と病理組織標本の作製について学ぶ。
		病理検査学実習		◎	○	○	◎	病理学実習の基礎のもとに、病理組織標本作製のうち、特に特殊染色の習得を目的とする。また、細胞診では、主に婦人科および呼吸器領域において得られる良性細胞と悪性細胞の鑑別およびスクリーニングの基礎的技術の習得を目的とする。
		微生物学Ⅰ(微生物学総論)		◎	○	○	○	感染症の原因となる微生物の形態、代謝、増殖、遺伝の特徴を学び、微生物検査および臨床検体の安全な取り扱いに必要な基礎知識を身につける。
		微生物学Ⅱ(感染症の病原体とその検査・基礎)		◎	○	○	○	感染症は微生物の病原力がヒトの感染防御能を超えた場合に発症することを理解し、微生物の薬剤耐性化のメカニズムを学び、感染症の化学療法の基本的考え方を学ぶ。病原性細菌のうちグラム陰性球菌、グラム陰性球菌による感染症の微生物検査法に関する知識を修得する。

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。	
専門科目	形態系検査学	臨床微生物学Ⅰ(感染症の病原体とその検査・細菌)	◎	○	○	○	感染症の原因となる細菌の生物学的性状や病原性の特徴、引き起こされる感染症についての基礎知識を修得し、細菌学的検査の概略と検査結果の解釈法、診断・治療における検査の重要性を理解する。
		臨床微生物学Ⅱ(感染症の病原体とその検査・真菌とウイルス)	◎	○	○	○	感染症の原因となる細菌、真菌、ウイルスの生物学的性状および病原性の特徴、引き起こされる感染症についての基礎知識を修得し、微生物検査の概略と検査結果の解釈法、診断・治療における微生物検査の重要性を理解する。
		微生物学実習	◎	○	◎	○	病原性細菌および真菌を用いて、微生物検査の基本的技術である滅菌・消毒法、培地や試薬の作製法、無菌操作法、染色、培養、同定、薬剤感受性試験、遺伝子検査法の実習を行い、感染症の診断に必要な微生物検査の臨床技能を身につける。さまざまな検査法の原理や判定方法についての理解を深め、検査結果の正しい解釈法を身に着ける。臨床実習では、臨床検体を用いた検査を見学・体験し、診断における検査の重要性を理解し、問題解決能力を高める。
		寄生虫学	◎	○	○	○	寄生虫と宿主の相互関係から寄生虫疾患の意味を理解し、その感染様式について生命の相互作用や進化の問題も含めて考察できるようにする。またこれに関連して、寄生虫体の引き起こす免疫機構や代謝機構の特徴を考える。これらの理解をふまえ、寄生虫感染の病理、診断、予防法が総合的に把握できるようにする。
		寄生虫学実習	◎	○		◎	実習を通じて寄生虫疾患の理解を深め、寄生虫と宿主の相互作用を理解する。また、寄生虫疾患についての適切な診断法が選択できるような思考力を身につける。また、補助診断法として有用な免疫診断法についての理解を深める。
		臨床血液学Ⅰ(血液学的検査・止血学的検査・染色体検査)	◎	○	○	○	血液疾患の診断に必要な検査法の意義や方法と疾患との関係を理解させる。
		臨床血液学Ⅱ(細胞成分と出血・止血の基礎)	◎	○	○	○	主として出血性疾患の理解と、血球の産生と、赤血球、白血球の機能ならびにこれらの血球系の疾患を理解する。
		臨床血液学実習	◎	○	○	◎	血液形態および止血に関する検査手技の習得と検査法の臨床的意義の理解、さらに臨床実習を通じて、基本的手技と診断上の重要性を体得させる。
		免疫学Ⅱ(輸血医療と移植免疫)	◎	○	○	○	輸血と移植免疫に必要な基礎知識について学ぶ。
		免疫検査学	◎	○	○	○	免疫学的検査の意義を学ぶために、現代免疫学の理論的背景を理解する。
		輸血検査学	◎	○	○	○	輸血検査の意義を学ぶために、輸血学の理論的背景を理解する。
		免疫検査学実習	◎	○	○	◎	免疫血清学的検査の基本手技と診療上の重要性を、実習を通して体得させる。
		輸血検査学実習	◎	○	○	◎	輸血検査の基本手技と診療上の重要性を、実習を通して体得させる。
		分子遺伝学	◎	○			生物における遺伝情報の複製や遺伝子発現の調節について学び、疾病発症の機序や検査技術科学における遺伝子検査法の原理を理解するための基礎知識を得る。
		遺伝学	◎	○			生物の遺伝的な現象を理解し、応用に結びつく遺伝学の基礎知識を習得する。
		遺伝子検査学Ⅰ(遺伝子検査の基礎)	◎	○	○	○	さまざまな遺伝子検査技術の原理、正確かつ安全に検査を行なうために必要な基本的手技、および検査結果の正確な解釈に必要な精度管理法等を学び、遺伝子検査技術に関する基礎知識を修得する。また、遺伝子検査技術が医療や医学研究にも利用されていることを知る。
		遺伝子検査学Ⅱ(遺伝子検査の応用)	◎	○	○	○	実習を通じて遺伝子検査の基本的な手技を身につけ、基礎技術および検査結果の解釈に関する理解を深める。新しい臨床検査技術の開発研究や遺伝性疾患の原因に関する研究についての講義を通じて、遺伝子検査技術への関心を高める。
	臨床検査学	検査機器総論	◎	○	○	○	臨床検査においては、多くの精密機械や分析機器が用いられている。そこで、これらの機器の原理、構造、使用法及び保守管理などについて教授する。
		医用工学概論	◎	○	○	○	医療における工学の役割を理解し、生体情報の収集・分析や治療に使用される工学的機器の原理、構造、特徴、安全対策を学習する。 *この学科のDPの中には「幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している」が含まれています。
		医用工学実習	◎	○	○	◎	将来、臨床機器を取り扱うことを想定して、エレクトロニクス回路の応用、医療測定装置、変換機器などの安全性試験、特性試験などの実験を通して、医療技術の精度と安全確保の重要性を習得する。 *この学科のDPの中には「幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している」が含まれています。
		臨床医学総論	◎	○	○	○	疾病の原因、各種疾患の概要につき講義する。
		臨床病理学総論	◎	○	○	○	神経筋疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患、動脈硬化病変等と検査の関連性を講義し、疾患の病態生理と検査成績の変化について講義する。
		臨床検査総論Ⅰ(臨床検査・尿検査・採血)	◎	○	○	○	臨床検査とは何か、医療における臨床検査技師の役割や他の医療職種との関連、強調についての知識を身につけるようにする。また、各種の専門的な検査を行う前に実施する一般検査のうち、科学的な検査項目について、その測定意義及び検査法を学習する。
		臨床検査総論Ⅱ(尿沈渣・便・体液・喀痰検査)	◎	○	○	○	尿、便、髄液、腹腔液など、血液以外の生体材料を用いる一般検査についての知識を学習する。
		臨床検査総論実習	◎	○	○	◎	尿、髄液、穿刺液等を対象とする一般検査や緊急検査中の特に、尿の化学検査について実習を行う。また、臨床検査業務に必要な採血についても、その手技を十分に習得できるようにする。
		臨床検査総論管理学	◎	◎	○	○	病院検査部の現状と将来展望および検査業務遂行に必要な技能の習得。

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
				①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持つて医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統のかつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様なニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。
専攻共通	医療法規	◎	○	○	○			臨床検査技師がコ・メディカルとして業務を行う上で守らなければならない医療法規の範囲と、他の関係法規とのつながりを把握させることを目的とする。
	臨床技能実習	◎	○	○	○	◎		4年次に実施される病院での臨床実習において必要な、基本的技術や知識を習得することを目的とする。
	電子計算機概論	◎						コンピュータの基本的なアーキテクチャ、及び情報科学の基礎的な学問について講義すると共にG言語による基礎的なプログラム作成能力を実習を通して習得させる。
	電子計算機概論演習	○					◎	電子計算機を用いた検査技術の原理・手法を深く理解することで、より良質の解析結果が得られたり、解析方法改良の発想が生まれる可能性がある。生体情報の信号処理とデジタル画像処理の実験を体験に基づき修得することがこの授業の目的である。
	専門外国語	○	◎	○	○			臨床検査技術に関する専門英語および検査室での英会話に習熟し、臨床検査技術に関連する最新の情報を国内外から取得する方法を学ぶことにより、国際性を身に着ける。
	病態栄養と臨床検査	◎	◎	○	○			近年、糖尿病、脂質異常症、痛風等の代謝疾患が増加し、動脈硬化性疾患並びに血栓性疾患の原因として注目されている。本講義では、これらの代謝疾患の成因につき、栄養学的な視点から解説し(濱田)、病態解析に有用な臨床検査法についても教授する(齋藤)。(オムニバス方式)
	健康食品学	◎						医学・栄養学・食品学の科学的知識をもとに、保健機能食品およびいわゆる健康食品の機能・効果・影響等について教授する。さらに、食事と疾患の関係、健康食品と薬の相互作用、健康食品や食品添加物の安全性や用い方を教授することによって、対象者の健康状態に応じた健康食品の利用法を適切に判断し、指導できる場力を養う。
	健康食品法規	◎		○				健康食品法規では、健康食品に対する安全性の確保、品質、販売方法等に対する法規について学ぶ。
	国際医療活動論		◎	○	○			This course is an introduction to understand of the concept of International Nursing and health, the global perspectives on health, and the global cooperation and collaboration of nursing and other health care providers.
	統合臨床検査学	○	○	◎	○	◎		1～3年次で学修した臨床検査に関する知識・技術を統合し活用して、さまざまな検査に関する説明や検査結果に基づく情報発信を行う能力を高めることを目的とする。
卒業研究		○	○	○	○	◎		臨床検査分野のテーマについて、実験計画を立案し、実験を行い、それをまとめる作業を行うことにより、研究態度、独創的思考を養うことを目的とする。